ファルージャ虐殺支持の小泉を許すな

１１月８日、米占領軍はファルージャへの無差別総攻撃を開始した。占領軍はイスラム武装勢力の抵抗を口実としてイラク市民への殺戮を開始したのである。無差別にミサイルが発射され、すでに病院が破壊され子どもたちにも死傷者が出ている。

攻撃の口実としたイスラム武装勢力ザルカウィ幹部が脱出したと米司令官がみているにもかかわらず、米軍は平然と虐殺を続けている。イラク市民に対し占領軍とその傀儡政府に従わせるために攻撃しているのである。われわれはこのような米占領軍による蛮行を断じて許すわけにはいかない。

同時にわれわれは小泉の攻撃支持表明を糾弾する。国連のアナン事務総長までもが「武力行使がイラクを不安定化することもありうる」と懸念を表明している時に、小泉首相は９日、ファルージャへの総攻撃に「成功させなきゃいけないですね。治安改善がイラク復興のかぎですから」と支持を表明した。全世界で唯一の支持表明である。

小泉はイラク市民を犠牲にしても米占領軍支配が継続できればいいとの立場を示した。イラク市民を占領軍と傀儡政府に完全に従わせて、早くイラク利権を本格的に獲得したいとの率直な願望を小泉は表明したのである。

さらに小泉は多くの国がイラクから撤退を決めている時に、自衛隊イラク派兵の１年間延長を決めようとしている。小泉は明らかに自衛隊がイラク人を殺すこと、自衛隊員が殺されることを望んでいる。そのことによってグローバル資本主義の最も好戦的勢力にふさわしい軍隊を日本が持つことになると考えているからである。

この小泉の支持表明を撤回させ、自衛隊撤退を勝ち取ることが日本反戦運動の緊急の任務である。すでにイラク市民は占領軍の撤退とあらゆるテロに反対し民主主義に貫かれたイラク建設のために立ち上がりつつある。イラク市民レジスタンスと連帯して占領軍の撤退を勝ち取り、これ以上のイラク市民の犠牲者を出さないようにしなければならない。

今こそ第二のスーパーパワーが占領軍撤退を目指し闘う時である。ブッシュ、小泉は米大統領選挙結果を誤解している。ブッシュが勝利した相手はケリーであって世界の反戦運動やイラク市民ではない。そのことを思い知らせてやらねばならない時である。全世界の反戦運動とイラク市民レジスタンスの力で世界からブッシュ、小泉、ブレアを追放しよう。

2004年１１月１０日

民主主義的社会主義運動（MDS）